

あめ  
雨にもまけず

みやざわ けんじ  
宮沢賢治

あめ  
雨にもまけず

かぜ  
風にもまけず

ゆき なつ あつ  
雪にも夏の暑さにもまけぬ

じょうび  
丈夫なからだをもち

よく  
欲はなく

けつ おこ  
決して怒らず

いつもしずかにわらっている

いちにち げんまい よんごう  
一日に玄米四合と

みそ すこ  
味噌と少しの野菜をたべ

あらゆることを

じぶんをかんじように入れずに

よくみききしわかり

そしてわすれず

のほら まつ はやし かげ  
野原の松の林の蔭の

ちい かや こや  
小さな萱ぶきの小屋にいて

東に病ひがし気びょうきのこともあれば

行って看かん病びょうしてやり

西にしにつかれた母ははあれば

行ってその稲いねの束たばをお負おい

南みなみに死しにそうつとな人ひとあれば

行いってこわがらなくてもいいといい

北きたにけんかやそしうょうがあれば

つまらないからやめろといい

ひでりのときはなみだをながし

さむさのなつはオロオロあるき

みんなにデクノボーとよばれ

ほめられもせず

くにもされず

そういうものに

わたしはなりたい